

「マタイ9章」

イントロ:

1. 第41回聖地旅行から2日前に帰国した。
 - (1) 今回は、アナポリスでの中東和平国際会議の最中。二国共存への交渉を開始
 - (2) 「ユダヤ人はイエスの裁判、十字架、復活のことをどう思っているか」との問い。
 - (3) イスラエルが置かれている状況を理解しない旅行者の怒り。
 - (4) 以上のことは、すべて紀元70年のエルサレムの滅びと関係がある。
 - (5) さらに遡れば、イエスのメシア性を拒否したことに根本的な原因がある。
2. 8章では5種類の癒しを取り上げて、底流に光を当ててイエスのメシア性を証明した。
3. 9章では5種類のパリサイ人との論争を取り上げ、イエスのメシア性を証明する。
 - (1) 中風の人の癒し
 - (2) マタイの召命
 - (3) 断食論争
 - (4) 会堂管理者の娘の蘇生(長血の女の癒し)
 - (5) ふたりの盲人の癒し
 - (6) 悪霊につかれた口の利けない人の癒し
4. メッセージのゴール
 - (1) イエスを拒否した結果、ユダヤ人は取り返しのつかない悲劇を招いた。
 - (2) 今も、イエスにどのような応答をするかで、人の運命は決まる。
 - (3) このメッセージによって、イエスに対する信頼を深めていただきたい。

マタイ9章に記された5種類の、パリサイ人との論争は、イエスのメシア性を証明している。

I. 中風の人の癒し

1. 場所
 - (1) カペナウム。ガリラヤの中心都市。
 - (2) なぜエルサレムから遠く離れたこの町が注目されるのか。メシア運動の中心地。
2. 人物
 - (1) 律法の専門家たち(ルカ 5:17~26)。
 - (2) 理由は、イエスがメシアであるかどうかを確かめるため。
 - (3) イエスは、メシアにしかできない癒し(レプラ患者の癒し)を行われた。
 - (4) 宗教的な指導者たちは、イエスを観察するためにそこに来ていた。
 - (5) メシア運動評価の第一段階(観察の段階)。
 - (6) バプテスマのヨハネの時よりも、盛大。観察の最終段階。

3. 状況

- (1) 中風の人が運ばれてきたが、戸口には律法の専門家たちがいた。
- (2) そこで4人の友人たちは、屋根をはがして、中風の人をイエスの前に降ろした。
- (3) イエスは「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と宣言された。
- (4) 通常は癒しが先行するが、ここでは、罪の赦しの宣言が先。

4. 論争

- (1) 神への冒瀆か。ヘブル語では受動態。レビ記4章～6章のみ。メシアの業を指す。
- (2) イエスが単なる人間か、メシアかで結論は異なる。
- (3) 「観察の段階」。彼らは、「心の中で」論じた。
- (4) 彼らの理屈を見抜いたイエスは、質問をした。質問で答えるのはラビ的方法。
- (5) 『あなたの罪は赦された』と、『起きて歩け』と、どちらがやさしいか
 - ①結果が要求されること(体の癒し)を宣言するのは難しい。
 - ②イエスは困難な方を行い、より易しいことが有効であることを示した。
 - ③これもまた、ラビ的教授法。
- (6) 中風の方は、ただちに床をたたんで、神をあがめながら家に帰った。
- (7) 「人の子」とは、イエスのメシア宣言。
- (8) メシア運動は「観察の段階」から「審問の段階」に入る。

5. 適用

- (1) 私たちが経験する最も恐ろしいことは、死ではなく、その後に来る。
- (2) 信仰。罪を赦す権威。これがキーワード。

II. マタイの召命(マタイの証し)

1. 取税人

- (1) 当時、取税人は同胞から忌み嫌われていた。
- (2) その職業自体が、ユダヤの律法に反するもの。
- (3) 取税人は、ローマの手先として働く売国奴。同胞を搾取することで裕福に。
- (4) 取税人は、ユダヤの律法によって共同体の交わりから追放された。
- (5) 取税人には、所得税を取り立てる取税人と、通行税を取り立てる取税人があった。
- (6) 前者よりも後者の方が、より嫌われていた。マタイは、後者。

2. 召命

- (1) 「わたしについて来なさい」
- (2) ローマ皇帝よりも権威ある方。すぐに、財産も地位も捨てて従った。
- (3) 漁師から弟子になった者たちよりも、犠牲が大きい。
- (4) イエスの7番目の弟子が誕生。

ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとナタナエル

3. マタイが催した宴会

- (1) イエスに従った瞬間、マタイは霊的に新生した。彼の誕生パーティー。
- (2) その喜びの結果が、宴会となって表れた。
- (3) 出席者
 - ① 律法では、取税人が交際を許されたのは、取税人と罪人(娼婦)だけ。
 - ② マタイがこの宴会に招いたのは、当然、取税人と罪人だけ。
- (4) そこに、イエスとその弟子たち(6人)も出席した。

4. 論争の内容

- (1) パリサイ人たちは、メシアがこのようなことをするはずがないと迫る。
 - ① メシア運動の吟味は、「観察の段階」から「審問の段階」へと移行。
 - ② パリサイ人たちは、言葉に出してイエスを問いただす。
- (2) イエスは3つの面から回答。
 - ① 「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です」
 - ② 「わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない」

「いけにえ」とは、外側に出た行為のこと(律法主義的生活)。

「あわれみ」とは、内面的なもの(行為の背後にある動機)
 - ③ パリサイ人たちは律法主義的であったが、同情心や愛は持っていなかった。
- (3) 「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです」
 - ① パリサイ人たちは、自分のことを「正しい人」と考えていた。
 - ② メシアは、自らが罪人であることを認めている人を招くために来た。

III. 断食論争

1. 背景

- (1) バビロン捕囚という悲劇は、ユダヤ人たちに大きな反省を迫った。
- (2) 帰還後、エズラは613のモーセの律法を熱心に解説した。
- (3) 次の世代の指導者たちは、その解説にさらに種々の命令を付け加えた(垣根)。
- (4) 4百年の言い伝えが「口伝律法」となり、聖書と同じ権威を持つようになった。
- (5) パリサイ人たちは、口伝律法に基づいて、週に2回(月曜と木曜)断食をした。

2. 論争

- (1) 断食しないで飲み食いしているイエスとその弟子の姿は、実に不愉快。
- (2) 「イエスがメシアであるなら、口伝律法を破るはずがない」
- (3) イエスは、3つの答えを与えている。
 - ①今は、喜びの時だから、断食する必要はない。
 - * 花婿がいるのに、花婿につき添う友に断食させることはできない。
 - * しかし、花婿が殺される時には、断食する。預言的な要素。
 - ②だれも、新しい布切れで古い着物の継ぎをするような愚かなことはしない。
 - * 「新しい着物」とは、神の国の実質である。
 - * 「古い着物」とは、当時のユダヤ教、つまり、パリサイのユダヤ教。
 - * 両者は、全く異質のもの。組み合わせることはできない。
 - ③新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしない。
 - * 当時は、やぎの皮を皮袋として用いていた。
 - * 新しいぶどう酒は、新しい皮袋にというのが、当時の常識。
 - * 醗酵途上の新しいぶどう酒は、古い皮袋を張り裂いてしまう。
 - * 新しいぶどう酒とは、神の国の実質、聖霊が与えるいのち。
 - * 古い皮袋とは、言い伝えや伝統を重視するパリサイのユダヤ教。

3. 適用

- (1) イエスは、口伝律法をモーセの律法と同等に扱うパリサイのユダヤ教を批判。
- (2) 現代のメシアニック・ジューの葛藤。
 - ①モーセの律法や、ユダヤ教の伝統を自発的に実行するのはよい。
 - ②それが、信者の義務として強制されるなら、それは律法主義。
- (3) 私たちの信仰生活の中に、パリサイ的要素はないか。
 - ①アルコール飲料、趣味、日曜礼拝
 - ②ユダヤ教の場合は律法の内容は同一。
 - ③キリスト教の場合は、教派、教団により異なる。

IV. ふたりの盲人の癒し

1. 「ダビデの子よ。私たちがあわれんでください」
 - (1) メシアへの信仰
 - (2) 個人的必要
2. イエスは、公の場では癒していない。
 - (1) 国の指導者たちが拒否しているから。

3. 私的場では癒しを行う。
 - (1) 信仰を確認。
 - (2) 「あなたがたの信仰のとおりになれ」
 - (3) 沈黙を要求したが、これは聞き入れられなかった。

V. 悪霊につかれた口の利けない人の癒し

1. 当時の悪霊の追い出し
 - (1) 名前を聞き出して、その名を呼んで追い出す。
 - (2) 口の利けない悪霊の場合は、名を聞き出せない。
 - (3) それは、メシアだけが行う奇蹟である。
 - (4) 第一のメシア的奇蹟は、レプラ患者の癒し。
2. イエスはその奇蹟を行った。悪霊につかれた二人の人
 - (1) 口を利けない人がものを言った。
 - (2) 群集は、驚嘆した。つまり、イエスはメシアであると考えた。
3. パリサイ人たちは、イエスがメシアであることを認めたくなかった。
 - (1) イエスの癒しの力は「悪霊どものかしら」から来していると説明した。
 - (2) もし人が、聖霊の力を悪霊の力だと言い張るなら、それは聖霊への冒瀆。

結論

1. 5種類の論争を見てきた。
2. パリサイ的目を離れてイエスを見るなら、イエスがメシアであることが分かる。
3. 私たちの前には、2つの道がある。
 - (1) イエスを信じるなら、罪の赦しを得る。これを救いという。
 - (2) イエスを拒否するなら、恐ろしい運命が待っている。